



# 成美っ子

学校だより 令和7年度No.10

## 能登半島地震から学んだこと

4年担任 谷井 瞳

能登半島地震から2年がたちました。あの日、私は氷見市にある実家のリビングで家族と一緒にテレビを見ていました。1回目の揺れのときは、あまり驚くことはなかったのですが、テレビ放送の避難指示を聞き、慌てて家族と外に出ました。家の横にある道路に出たら、立ってられないような激しい揺れがあり、これは危ないと身の危険を感じました。スマホから鳴る地震速報のアラームの音がさらに恐怖を感じさせました。実家は海から5分ほどの所にあります。津波の襲来におびえながらすぐさま避難をしました。その日から2日間避難所で過ごしました。4年生では、2学期に、社会科「自然災害からくらしを守る」、国語科「もしものときにそなえよう」の学習を行いました。この中で、私自身が子供と学習をしながら感じたこと、地震を経験して学んだことを3つ書きたいと思います。



【防災備蓄倉庫を見学する様子】

**1つ目は、「事前の備えの大切さ」です。**いつ、どこで起こるか分からない災害の被害にあったときのために、家族と話し合っどどのように行動するか確認や連絡の方法等について具体的に決めておくことが大切だと感じました。私が避難したとき、車で避難した人が多く、避難所までの道では大渋滞が起きました。移動手段や最低限の持ち出し物等、事前の準備や話合いが大切だと思います。

**2つ目は、「当たり前は当たり前ではないこと」です。**蛇口をひねれば水が出てくる、停電の心配をすることなく電気を使える、食べたい物を食べられるということは当たり前ではないと改めて感じました。私の住む地域では、約10日間断水となりました。その間何度も水を汲みに給水所へ行きました。雪の降る中、重たい水を汲みに行くことは大変な仕事でした。私自身は、断水解消後日常生活に戻りましたが、半倒壊や倒壊のため、住み慣れた家をなくしたり、土地を離れたりしなければならない方がたくさんおられました。家があること、眠れること、食べられること、水や電気等を十分に使えることがいかに尊いことであるかを実感しました。

**3つ目は、「人を大切にすること」です。**避難所では、物資を運搬したり、小さい子供のためにベッドを組み立てたり、食べ物を配付したりするなど、自分のためではなくそこにいるみんなのために協力し合いました。能登半島地震では被害を受けたり、大切な人を失ったりした方がたくさんおられました。家族や友達、同僚等身近な人がそばにいることのありがたさや周りの人たちの温かい心に支えられているということ強く感じました。また、学校で子供たちと顔を合わせることができ、挨拶を交わすことができること等の日常も当たり前ではないのだと再確認しました。「命の大切さ」と「たくさんの方に支えてもらったこと」を実感したこれらの経験から家族や子供たちと過ごすことのできる一日一日を大切に、そして感謝の心を忘れずに過ごしていきたいと思ひます。